

## 「児童生徒理解に関するチェック・リスト」

- 「児童生徒理解に関するチェック・リスト」(Ⅰ～Ⅲ)は、文部科学省が平成14年に実施した、学習障害(LD)、注意欠陥/多動性障害(ADHD)、高機能自閉症等、通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する全国実態調査で作成されたものです。
- 本チェック・リストは、指導者が子ども理解を深め指導の一助とするためのものです。
- 障害の判別を目的としたものではありません。

### 記入方法・記入上の留意点

- 領域は、Ⅰ「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」  
Ⅱ「不注意」「多動性－衝動性」  
Ⅲ「対人関係やこだわり等」  
の、3つです。すべての質問項目に数字で記入してください。
- チェックにあたっては、『同学年の児童生徒と比較してどうか』をポイントにチェックしてください。
- 記入の際は、まず、各領域(Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ)の質問項目を読み、それぞれの得点基準に従って(表を参照)、数字を記入してください。  
ただし、Ⅱ「不注意」「多動性－衝動性」については、得点を記入した後、計算点に換算し、合計してください。  
(計算点:右網掛け部分 合計:小計欄に記入)
- すべてのチェックが終わったら、各項目の得点(Ⅱは計算点の合計)を下のチェック・リストまとめ表に記入してください。
- 基準値は、Ⅰ－12点、Ⅱ－6点、Ⅲ－22点です。基準値以上である場合、  
Ⅰ 学習面で困難を示す  
Ⅱ 行動面で困難を示す  
Ⅲ 対人面で困難を示す と考えられます。  
基準値以上の得点(計算点)や、近い数値等確認して、マーカーなどで示すとわかりやすい資料となります。  
なお、診断・判断値でないことを十分認識し、取り扱ってください。
- このチェック・リストについては、個人情報保護の観点から十分に取り扱いに留意し、児童生徒のよりよい支援のために活用してください。

### チェック・リストまとめ表

※下記の表に、各得点(Ⅱは計算点)を記入すると、基準値と比較できます。

※障害の判断を行うための基準ではありません。

	質問項目	基準値	得点
Ⅰ	「聞く」	12	
	「話す」	12	
	「読む」	12	
	「書く」	12	
	「計算する」	12	
	「推論する」	12	

	質問項目	基準値	計算点
Ⅱ	「不注意」	6	
	「多動性－衝動性」	6	

	質問項目	基準値	得点
Ⅲ	「対人関係やこだわり等」	22	

I 「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」

【次の4段階で回答】

状態	得点
ない	0
まれにある	1
ときどきある	2
よくある	3

学校	年 組
氏名	
記入者 (担任)	

領域	質問項目	得点	エピソード
聞く	聞き間違いがある（「知った」を「行った」と聞き間違える）		
	聞きもらしがある		
	個別に言われると聞き取れるが、集団場面では難しい		
	指示の理解が難しい		
	話し合いが難しい（話し合いの流れが理解できず、ついていけない）		
小 計			
話す	適切な速さで話すことが難しい（たどたどしく話す。とても早口である）		
	ことばにつまったりする		
	単語を羅列したり、短い文で内容的に乏しい話をする		
	思いつくままに話すなど、筋道の通った話をするのが難しい		
	内容を分かりやすく伝えることが難しい		
小 計			
読む	初めて出てきた語や、普段あまり使わない語などを読み間違える		
	文中の語句や行を抜かしたり、または繰り返し読んだりする		
	音読が遅い		
	勝手読みがある（「いきました」を「いました」と読む）		
	文章の要点を正しく読みとることが難しい		
小 計			
書く	読みにくい字を書く（字の形や大きさが整っていない。まっすぐに書けない）		
	独特の筆順で書く		
	漢字の細かい部分を書き間違える		
	句読点が抜けたり、正しく打つことができない		
	限られた量の作文や、決まったパターンの文章しか書かない		
小 計			
計算する	学年相応の数の意味や表し方についての理解が難しい （三千四十七を300047や347と書く。分母の大きい方が分数の値として大きいと思っている）		
	簡単な計算が暗算できない		
	計算をするのにとても時間がかかる		
	答えを得るのにいくつかの手続きを要する問題を解くのが難しい （四則混合の計算。2つの立式を必要とする計算）		
	学年相応の文章題を解くのが難しい		
小 計			
推論する	学年相応の量を比較することや、量を表す単位を理解することが難しい （長さやかさの比較。「15cmは150mm」ということ）		
	学年相応の図形を描くことが難しい （丸やひし形などの図形の模写。見取り図や展開図）		
	事物の因果関係を理解することが難しい		
	目的に沿って行動を計画し、必要に応じてそれを修正することが難しい		
	早合点や、飛躍した考えをする		
小 計			

II 「不注意」「多動性—衝動性」

氏名	
----	--

【次の4段階で回答】

状態	得点(左欄)	計算点(右欄)
ない、もしくはほとんどない	0	0
ときどきある	1	0
しばしばある	2	1
非常にしばしばある	3	1

領域	質問項目	得点	計算点	エピソード
不注意	学校での勉強で、細かいところまで注意を払わなかったり、不注意な間違いをしたりする			
	課題や遊びの活動で注意を集中し続けることが難しい			
	面と向かって話しかけられているのに、聞いていないようにみえる			
	指示に従えず、また仕事を最後までやり遂げない			
	学習課題や活動を順序立てて行うことが難しい			
	集中して努力を続けなければならない課題（学校の勉強や宿題など）を避ける			
	学習課題や活動に必要な物をなくしてしまう			
	気が散りやすい			
	日々の活動で忘れっぽい			
小計				
多動性—衝動性	手足をそわそわ動かしたり、着席していても、もじもじしたりする			
	授業中や座っているべき時に席を離れてしまう			
	きちんとしていなければならない時に、過度に走り回ったりよじ登ったりする			
	遊びや余暇活動に大人しく参加することが難しい			
	じっとしていない。または何かに駆り立てられるように活動する			
	過度にしゃべる			
	質問が終わらない内に出し抜けに答えてしまう			
	順番を待つのが難しい			
	他の人がしていることをさえぎったり、じゃましたりする			
小計				

Ⅲ「対人関係やこだわり等」

氏名	
----	--

【次の3段階で回答】

状態	得点
いいえ	0
多少	1
はい	2

※合計が22点以上のとき、行動面（対人関係やこだわり等）で著しい困難を示すと考えられる。

領域	質問項目	得点	エピソード
対人関係やこだわり	大人びている。ませている		
	みんなから、「〇〇博士」「〇〇教授」と思われている（例：カレンダー博士）		
	他の子どもは興味を持たないようなことに興味があり、「自分だけの知識世界」を持っている		
	特定の分野の知識を蓄えているが、丸暗記であり、意味をきちんとは理解していない		
	含みのある言葉や嫌みを言われても分からず、言葉通りに受けとめてしまうことがある		
	会話の仕方が形式的であり、抑揚なく話したり、間合いが取れなかったりすることがある		
	言葉を組み合わせて、自分だけにしか分からないような造語を作る		
	独特な声で話すことがある		
	誰かに何かを伝える目的がなくても、場面に関係なく声を出す（例：唇を鳴らす、咳払い、喉を鳴らす、叫ぶ）		
	とても得意なことがある一方で、極端に不得手なものがある		
	いろいろな事を話す、その時の場面や相手の感情や立場を理解しない		
	共感性が乏しい		
	周りの人が困惑するようなことも、配慮しないで言うってしまう		
	独特な目つきをすることがある		
	友達と仲良くしたいという気持ちはあるけれど、友達関係をうまく築けない		
	友達のそばにはいるが、一人で遊んでいる		
	仲の良い友人がいない		
	常識が乏しい		
	球技やゲームをする時、仲間と協力することに考えが及ばない		
	動作やジェスチャーが不器用で、ぎこちないことがある		
	意図的でなく、顔や体を動かすことがある		
	ある行動や考えに強くこだわることによって、簡単な日常の活動ができなくなることがある		
	自分なりの独特な日課や手順があり、変更や変化を嫌がる		
	特定の物に執着がある		
	他の子どもたちから、いじめられることがある		
独特な表情をしていることがある			
独特な姿勢をしていることがある			
合計			